

平成29年度第1回（経営学・経済学・会計学・心理学・数学）分野グループ合同会議議事概要
（経営学・経済学・会計学・心理学）教育FD/ICT活用研究委員会
CCC数学グループ運営委員会

- I. 日 時 : 平成29年7月29日（土）13:30～15:30
II. 場 所 : 私学会館(アルカディア市ヶ谷) 7階 琴平
III. 出席者 : 経営学教育FD/ICT活用研究委員会 佐々木委員長、安田委員、雑賀委員
経済学教育FD/ICT活用研究委員会 林委員長、児島委員、山田委員、中嶋委員、山崎委員
会計学教育FD/ICT活用研究委員会 岸田委員長、松本委員、阿部委員、川崎委員、金川委員
心理学教育FD/ICT活用研究委員会 木村委員長、横山委員
CCC数学グループ運営委員会 井川委員、白田委員、山本委員、平野委員、
山崎委員(スカイプ参加)
事務局 井端事務局長、森下主幹、中村事務局員

IV. 委員紹介

昨年度の対話集会から加わった会計学はじめ、5分野の出席委員から自己紹介が行われた。

VI. 報告・検討の概要

1. 事務局より、昨年度報告及び今年度の対話集会開催計画案の進め方について以下の報告説明を行った。

(1) 平成28年度の事業報告

事業報告書により、昨年度の分野別アクティブ・ラーニング対話集会の開催結果について事務局から概略以下のような報告を行った。

平成28年度は、30分野を7グループに編成し、分野が連携する中で知識を組み合わせ新しい発想を育成する分野横断型のアクティブ・ラーニングの必要性を提案したが否定的な意見はないものの参加者の多くは個別授業でのアクティブ・ラーニングに留まっており、積極的な関心が見られず、分野横断型の学びの仕組みについて深く議論するまでには至らなかった。

また、ディプロマポリシーを実現する教学マネジメントとしての学位プログラムへの理解についても授業内容可視化の理解に留まり、授業科目の調整・統合など踏み込んだ議論が見られなかった。

(2) 今年度の事業計画（分野連携対話集会の進め方）

平成28年度の対話集会の結果及び平成28年度に実施した「私立大学教員の授業改善調査」の結果から、アクティブ・ラーニングの取り組みは緒についたばかりであり、大半は「個別授業」での「講義との組み合わせ」による「知識の定着・確認」となっていることを踏まえ、本年度は以下の視点を中心に5分野連携による対話集会を展開することにする。

・ ICTを活用した教育改善の在り方の探究

個別授業における工夫・改善を図るため、学生が身につけるべき学力の3要素の向上・発展に効果的な「教育改善モデル」や、ICTを活用した「教育改善の実践事例」を踏まえてアクティブ・ラーニングの教育・学修方法を探求する。

・ 外部評価試験と教育の質保障

私情協が提案している口頭試問等によるICTを活用した外部評価試験の必要性和大学連携コンソーシアムの仕組みについての理解の共有と、教育の質保障を確保するアセスメントモデルの実現に向けた議論を展開する。

・ 学位プログラムへの転換と授業科目の相互改善に結びつける仕組み

授業の可視化、学修成果の可視化など授業情報の共有と、eシラバス、eポートフォリオ活用など授業科目の相互改善に結びつける仕組みについて理解を深める。

(3) 対話集会の進め方

今年度は昨年度より 30 分増やし、話題提供 1 時間半、意見交換 2 時間の 3 時間半で開催する。
話題提供として資料③にある以下の*も参考に本日の合同会議で検討して欲しい

- * ICT を活用した「学力の 3 要素」を高める教育改善モデル
- * ICT を活用した大人数の双方向授業、事前・事後学修、反転授業、地域連携授業などの実践事例
- * モバイルを活用したアクティブ・ラーニング
- * ICT を活用したアクティブ・ラーニング達成度の測定方法
- * e シラバス、e ポートフォリオなどを活用した授業の可視化、学修成果の可視化
- * 授業改善をオープンに議論するポータルサイトの活用など

(4) 意見交流について

資料③に例として挙げた以下の*も参考に 2 件か 3 件、本日の会議で検討して欲しい

- * 「学力の 3 要素」を高める ICT 活用教育又は双方向授業、事前・事後学修、反転授業、地域連携授業の ICT 活用の効果と課題
- * ICT による外部評価試験システムの必要性
- * 授業科目の相互改善を促進するオープンな議論の必要性和 ICT 活用

- ・意見交流の活性化のため、今年度は教員だけでなく職員や必要に応じて学生の参加を検討する。
- ・「ICT による外部評価試験システムの必要性」については、第 2 回合同会議で検討を行い、意見交流において私情協から説明を行うことを考えている。
- ・活発な意見交流のため参加者全員や学生に発言を求め、参加教員には課題認識の共有化と、気づきの働きかけを行いたい。

(5) スケジュール

第 1 回合同会議 (7 月)

- ・話題提供候補の検討
- ・意見交流のテーマ検討
- ・ICT による外部評価試験システムの必要性の検討
- ・対話集会の開催日時・場所の検討

第 2 回合同会議 (10 月)

- ・開催要項の確定
- ・話題提供者の確定
- ・意見交流のテーマ確定
- ・開催日時・場所の決定
- ・運営シナリオの検討と役割分担

対話集会 (12 月)

以上の説明後、各分野ごとに「教育改善モデル」「実践事例」「話題提供」等について検討がなされた。

2. 話題提供候補の検討

各分野ごとに検討された話題提供候補について、仮タイトル名と概要の説明がなされた。

経済学委員会：

- ① 「授業評価アンケートについて」名古屋学院大学 児島完二委員
 - ・名古屋学院大学において運用中の事例
 - ・LMS の中に学生の理解度、満足度などの授業評価アンケートを加え、出席率等のデータと共に把握することで教員自身の気づきを助け、授業改善に役立っている
- ② 「授業改善の気づきを促す ICT の活用」(福岡大学 山崎好裕委員)

- ・教育改善への気づきや、関心の低い教員を念頭に、授業改善に寄与する分野共通の ICT アクティブ・ラーニングを議論する教育改善の提案
- ・授業改善モデルを参考とし、提案していく話題提供

経営学委員会：

- ① 「産学連携による地域連携型イノベーションスクール」(名城大学 雑賀憲彦委員)
 - ・前任の鳥取大学における取組事例
 - ・地元企業との産学連携の問題解決型グループディスカッション
 - ・大学院で半年間実施したもので、学部学生向けには色々な課題がある

会計学委員会：

- ① 決算書の判断に関わるアクティブ・ラーニング
 - ・教育改善モデルに沿って、学生に会計情報(決算書)のおかしい数字の発見や、おかしいと判断する事を学修させる提案
 - ・カリキュラムの内容については、卒業生や企業人など外部から評価をしてもらうと良い

心理学委員会

- ① 公認資格の発足を踏まえ、受け身とまらない心理学
 - ・今年度から始まる「公認心理師」資格制度により、知識偏重型教育にならないための心理学教育改善モデルの提案

数学委員会：

- ① 数学教育における学位プログラムを、学生が主体的に学ぶ授業改善モデルへの見直し
 - ・高校における数学教育内容の変更を踏まえ、学生が主体的に学ぶための「数学教育における教育改善モデル【1】と【2】」の見直し提案

各分野の委員や事務局の主な意見は：

- ・5年前にまとめた各分野ごとの教育改善モデル(配布：「資料」)の振り返りが必要。
- ・教育改善モデルや実践事例を紹介する話題提供では、学士力の何を高めるための教育改善モデルか、ICTの活用かを明確にしてほしい。
- ・会計学、心理学、数学の話題提供候補は、教育改善モデルを前提としている。
- ・経済学も、以前の教育改善モデルを参考資料として新しく話題提供することが可能。

議論の結果、第1回合同会議では、5分野から出された「授業改善モデル」と、名古屋学院大学の「授業評価による授業改善の実践」を候補とし、次回の第2回合同会議で絞り込むこととした。

なお、話題提供は4つに絞り込まなくても各15分の発表と15分の質疑応答で5つの提供を可とし、次回決定することとなった。

なお、第2回合同会議前までに各分野委員会委員には、話題提供候補の「タイトル」と「骨子」を準備し提出いただくこととなった。(タイトル1行と骨子3行の合計4行程度)

3. 意見交換のテーマ検討

事務局から「配布資料③は意見交換の参考テーマであり、委員にはテーマの絞り込みや組み合わせを検討して欲しい」との説明があったのち議論を行った。

意見交換の参考テーマ(配布資料③)

- ・学力の3要素を高める ICT 活用教育や双方向授業

- ・双方向授業、事前・事後学修、反転授業、地域連携授業の ICT 活用の効果と課題
- ・ICT による外部評価試験システムの必要性
- ・授業科目の相互改善の促進するオープンな議論の必要性和 ICT 活用
- ・知識の創造を目指す分野横断型フォーラム授業の必要性

主な意見は：

- ・意見交換のテーマは、次回絞り込む話題提供のモデルの決定後に論点を議論してはどうか。
- ・お互い関連するものだが、意見交換のテーマは話題提供と区別して決めておくべきものと思う。
- ・理事会では、「学力の3要素とICTの活用」についてとりあげるべきとの意見が出ている。
「学力の3要素とICTの活用」については、分野ごとの進め方があって良いのではないかと。
- ・「学力の3要素を高めるICT活用教育や双方向授業」は取り上げるべきテーマと思う。
- ・「ICTによる外部評価試験システムの必要性」のテーマも良い。
- ・「知識の創造を目指す分野横断型フォーラム授業の必要性」は、会計学で詳細設計を検討している段階でありまだ早い。
- ・「授業科目の相互改善の促進するオープンな議論の必要性和ICT活用」は良いのではないかと。
対話集会には学生の参加も計画しており、教育改善についてオープンな議論となれば良い。

その他、数学分野からは「確率分布」や「行列」など、経済分野の具体的な問題と関わることで教育改善を深められるのではないかと意見が出され、別途議論いただく。

「ICTによる外部評価試験システムの必要性」については配布資料(参考. 1)に基づき事務局より以下の説明を行った。

- ・ICTを使い、学びの成果を外部者が評価する仕組み
 - ・試験問題は大学間連携に基づく教員、社会人有識者が作成し共用試験クラウドに収納
 - ・学生はビデオによる口頭試問を受け、端末から記述回答
 - ・出題した教員と授業担当教員が評価を行い、最終評価・単位認定を行う
- 意見交流の場で取り上げ、参加教員に考えてもらう。

出席委員から事務局に、

「学生にとってのインセンティブはあるか」、

「参加大学、学生が増えた場合の対応」について質問があり、

- ・試験問題は第3者レベルで作成されるものであり、大学にとって教育の質保障に重要な評価に有用。
- ・参加する大学の教員は分担して担当することになるので大きな負担とはならない。

と説明を行った。

4. 対話集会の開催日時、場所については

対話集会は12月の土日、会場は法政大学を予定していることを説明。

5分野の委員に予定を諮った結果、第1候補12月10日(日)、第2候補12月9日(土)とし、会場の確保可能日に開催することとなった。

その後、法政大学にて会場が確保出来たことから、

- ・**対話集会は12月9日(土)14時～17時30分 (委員事前打合せは13時) 法政大学 外堀校舎**

次回(第2回合同会議)は、10月7日(土)予定としたが、分野委員会に10月7日開催に不都合が生じたため、各分野委員に都合をネットで伺い

- ・**次回(第2回合同会議)は、10月15日(日)13:30～15:30 ホテルグランドヒル市ヶ谷**
にて開催することとなった。